



平成 15 年 9 月 16 日

各 位

会 社 名 株式会社ティー・ワイ・オー  
代表者名 代表取締役社長 吉田 博昭  
(登録銘柄 コード番号: 4358)

問合せ先 取締役経営企画部長  
繁松 徹也

T E L 03 - 5434 - 1586

### 平成 15 年 9 月期通期 (連結・単独) の業績予想について

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 15 年 9 月期 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日) の業績予想 (連結・単独) を下記のとおり修正致します。

平成 15 年 9 月期における連結売上高は、10,600 百万円 (前年同期比 137.8%)、経常利益 300 百万円 (前年同期比 329.6%)、当期純利益 25 百万円と前期比で大幅な改善となる見通しであります。グループ社数も平成 14 年 9 月期末の 9 社から 14 社へと拡大し、「マルチブランド戦略」(当社を事業持株会社とした多数の優秀なコンテンツ制作会社をグループ化する戦略)は順調に実行されております。

しかしながら、主として利益面において平成 15 年 5 月 26 日の中間決算発表時の業績予想値を下回る結果となっておりますが、この主たる要因は単独業績における TV-CM 事業ならびにグループ管理業務の再構築に時間を要した点にあります。

なお、今回の業績予想は平成 15 年 9 月 16 日現在の状況に基づいて算出しており、今後の受注や仕掛品の状況により大きく変動する可能性があります。

#### 記

##### 1. 連結業績予想の修正等 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	11,246	726	397
今回修正予想 (B)	10,600	300	25
増減額 (B - A)	646	426	372
増減率 (%)	5.7	58.6	93.7
前期実績 (平成 14 年 9 月期)	7,690	91	107
前期比 (%)	137.8	329.6	-

##### 2. 単独業績予想の修正等 (平成 14 年 10 月 1 日 ~ 平成 15 年 9 月 30 日)

(単位: 百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,900	280	65
今回修正予想 (B)	5,000	100	170
増減額 (B - A)	900	380	235
増減率 (%)	15.2	-	-
前期実績 (平成 14 年 9 月期)	5,552	106	9

前期比 (%)	9.9	-	-
---------	-----	---	---

### 3. 修正理由

#### (1) 連結について

連結業績予想の変動は、主に単独業績におけるTV-CM事業ならびにグループ管理業務の再構築に時間を要した点にあります。ご参考として、「単独業績」「平成14年3月以前からの連結子会社」「平成14年4月以降からの連結子会社」を区分した平成15年9月期単純合算の業績予想を記載いたします。

(単位：百万円)

	単独	平成14年3月以前からの連結子会社(5社)	平成14年4月以降からの連結子会社(5社)
売上高	5,000	2,517	3,366
経常利益	100	339	93
税引前当期純利益	170	324	93

上記決算値は単純合算であり、連結決算値とは一致いたしません。

当社と連結子会社間においては、アドミニストレーションコストや支払家賃等を各社応分に負担しております。

事業セグメント毎の動向は以下のとおりです。

#### A. 広告映像事業

広告映像事業におきましては、企業の広告費支出状況が厳しい環境下、当社グループは「マルチブランド戦略」を核として、TV-CM業界でのシェアアップを図るべく、新会社設立やM&Aを平成14年9月期に積極的に実行いたしました。

平成14年9月期において、新規設立および営業譲渡を受けた株式会社モンスターフィルムズと株式会社エムワンプロダクションにつきましては、2社合計の売上高2,700百万円、経常利益120百万円(営業権約45百万円償却後)と期初予算を超過する見通しであります。

また、平成14年10月に分社化いたしました株式会社ティー・ワイ・オーインタラクティブデザインにつきましても、インタラクティブ・コンテンツ制作の拡大により、平成14年9月期における部門損益と比較して増収・増益となる見通しであります。

しかしながら、擬似カンパニー制を導入し、営業強化を図った単独業績につきましては、第4四半期の不振により、期初予算対売上高が約1,100百万円の未達となる見通しであります。また、グループ拡大によるアドミニストレーションコストも若干増加した結果、売上高5,000百万円、経常利益は100百万円の赤字となる見通しであります。

平成16年9月期の対策といたしましては、平成15年8月に撮影事業の独立採算化を目的として分社化、クリエイティブ本部(企画演出部門)見直しの一環としてのディレクターズ・カンパニーとキャラクター・カンパニーの設立およびクリエイターの人員削減(分社化を含めて25名)により、売上高の増加に頼らずに利益計上をできる事業構造に改善いたしました。

また、平成15年10月より管理本部を分社化することにより、グループ管理業務の徹底した合理化と連結・単独決算の良好なバランスを達成していく見込みであります。

#### B. エンタテインメント事業

エンタテインメント事業におきましては、コンピュータグラフィックスとアニメーション制作を中心とした株式会社デジタル・フロンティアにつきましては、受注が好調で増収・増益となる見通しです。また、ミュージック・クリップ制作を中心におこなっている株式会社祭につきましては、大型作品の受注やイベント撮影への取り組みにより増収・増益となる見通しです。株式会社朱雀につきましては、OEM生産の受注が若干遅れたものの、減収・増益となる見通しです。平成15年3月にグループ化した株式会社スティングにつきましては、

売上高 220 百万円、経常利益 15 百万円程度となる見通しです。

#### C. コンテンツ・ソリューション事業

コンテンツ・ソリューション事業におきましては、映像編集技術提供を行う株式会社ポスト・プロダクション・センターにつきましても、主なクライアントであるTV・CM制作会社の制作本数減少と低予算化は継続しているものの、グループ内取引の拡大や他社への営業強化により、増収・増益となる見通しです。デジタルアーカイブ・ジャパン株式会社につきましても、インターネットやCD-ROMによるデジタル素材販売が順調に拡大したことに加え、撮影ビジネスの立ち上げにより増収・増益となる見通しです。

平成 14 年 10 月にグループ化した株式会社ウルトラにつきましても、平成 15 年 9 月中間期は 40 百万円の赤字でしたが、下半期は黒字化する見通しです。

#### (2) 単独について

連結業績の広告映像事業に記載のとおりであります。

#### 4. 配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営の重点課題と認識し、業績に対応した柔軟な配当（配当性向 25%以上）を基本方針としております。

「マルチブランド戦略」の本格化や単独事業の再構築により、平成 16 年 9 月期以降の業績については更なる拡大が展望できる状況であることを勘案し、従来の発表どおり 1 株当たり 4 円とさせて頂く予定であります。

#### 5. 平成 16 年 9 月期の業績（連結・単独）について

平成 15 年 10 月以降につきましても、広告映像業界は引き続き厳しい状況が予想されますが、成長途上である各子会社については増収・増益を見込んでおります。単独につきましても、上記のような対策を実施し、売上高の増加に頼らずに利益計上をできる事業構造に改善してまいります。グループのアドミニストレーションを統括する管理本部につきましても、平成 15 年 10 月に株式会社TYO Administrationとして分社化し、グループアドミニストレーションコストの明確化と合理化を図ってまいります。

また、エンタテインメント事業につきましても、株式会社デジタル・フロンティアのコンピュータグラフィックス制作が拡大していること、株式会社朱雀および株式会社スティングがOEMゲームソフト生産を拡大することにより安定的な収益計上が可能となったこと、株式会社祭の事業領域の拡大により、収益の大幅な拡大が見込まれます。

コンテンツ・ソリューション事業につきましても、従来の事業からの安定的な収益のみならず、事業領域の拡大による収益拡大に着手いたします。

更に、平成 16 年 9 月期におきましては、広告映像事業での事業領域の拡大やアニメーション制作などのエンタテインメント事業を中心とした「マルチブランド戦略」を更に積極的に推進することにより、事業ポートフォリオを拡大し「オールメディア映像コンテンツメーカー」としての位置付けを強固なものにして参る所存です。

平成 16 年 9 月期（平成 15 年 10 月 1 日～平成 16 年 9 月 30 日）の業績予想につきましては、平成 15 年 9 月期決算発表時に開示する予定であります。

以 上